



【個人出展】

奈良県立奈良高等学校 米田 敬司

●どんな観察・工作なの？

南の海にはいろいろな種類の貝がすみ、砂浜にはきれいな貝殻がいっぱい打ち上げられています。でも、重くて固い貝殻を背負って、いったい海のどこにすんでいるのでしょうか？ どうやって食べ物を得ているのでしょうか？ 貝の種類と貝殻の形・色によって、その生き方はさまざまです。気にいった貝を選んで、その生き方を想像してみませんか？

そして、形・色・生き方の特徴がその貝の名前を知るヒントになります。標本として整理すると、すてきな置物になりますよ。豊かな自然に生きる貝類の多様性を感じてみませんか。

●観察・工作のしかたとコツ

【用意するもの】

サクラガイなどの貝殻、ザルガイ科の貝殻、タカラガイの貝殻、イモガイの貝殻、図鑑

【観察・工作のしかた】

(1)科ごとに分けられたトレイから、気にいった貝殻を1つずつ選びましょう。

・ピンクのニッコウガイや白いザルガイのすんでいる場所を想像しよう。実は、砂の中に潜んでいます。砂の中で、どのように食べ物をとらえていると思いますか？ 海水を吸い込んで、プランクトンをこし取っています。

・サクラガイの仲間はつやのあるピンクで、ざらざらのヨコのすじ（成長線）のある種類もあります。

・ザルガイの仲間はタテのすじ（放射肋^{ほうしゃりく}）がはっきりしているものが多いです。

・タカラガイ科の貝殻を手にとってよく観察しよう。

・アサガオガイの色合いをよく観察します。

・毒を持つ種類が多いイモガイのなかまの模様を観察します。殻の斑点や縞模様が見分けるポイントになります。

・ニシキウズガイ科やタマガイ科の貝殻についても、観察してみましょう。

(2)形と色を図鑑と見比べて、貝の名前を調べてみよう。科ごとに分けて調べると名前は分かりやすくなります。

(3)ラベルに名前を記入して、整理して標本にします（図1）。

それぞれの種類がそれぞれの生き方をしている、そのために適した形と色を持ち合わせていることに気づくことができます。それぞれの特徴をもとに貝の名前を覚えて、今度は海で出会えるといいですね。

●気をつけよう

終了後は、手をよく洗いましょう。

●もっとくわしく知るために

以下の本により詳しい解説があります。

・奥谷喬司著「フィールドベスト図鑑 日本の貝1・2」学研（2006）

・奥谷喬司編著「日本近海産貝類図鑑」東海大学出版会（2000）



図1 標本例(当日は6種程度)